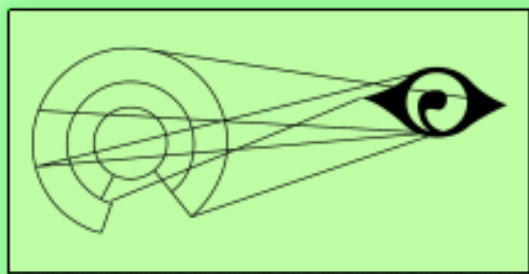


学びに向かう力の育成に向けた 指導と評価の在り方



北海道教育研究所連盟

主題設定の理由

北海道教育研究所連盟(以下、道研連)に加盟する所員対象の研修会等で、「学校が必要としている支援」は何かを協議しました。結果、全道の教育研究所・研修センターが作成した実践事例の紹介や道内の学校の実践の集約、指導計画例の作成等を行い、加盟機関で共有したいという声が多く挙がりました。

中でも、学習指導や学習評価の研究は、現場の先生のニーズに応えられること、特に「学びに向かう力」は、知識・技能や思考力・判断力・表現力等に比べ、指導や評価のイメージをもちにくいという理由から、共同研究推進委員会で研究を深めることとしました。

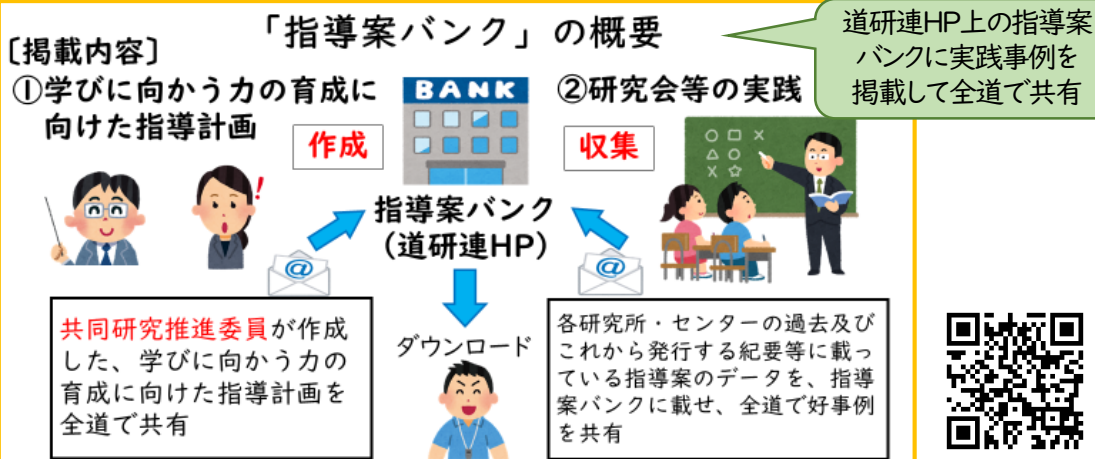
研究のねらい

各教育研究所・研修センターが学校支援のために活用する、学習指導や学習評価に関する実践事例の収集・提供やリーフレットの作成により、学びに向かう力の育成に向けた授業力の向上に資する。

研究内容

- (1) 学びに向かう力の育成を目指した指導計画及び評価事例の作成
- (2) 各教育研究所・研修センターが所管する域内の学校における実践事例の収集
- (3) 「指導案バンク」の作成・運営
- (4) 実践事例を基にしたリーフレットの作成

指導案バンク



「主体的に学習に取り組む態度」の評定の考え方

用語の整理

本研究では、用語を右のように定義しています。



評定	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況の評価の結果を総括するもの ・5段階で評価（小学校は3段階。小学校低学年は行わない）
形成評価的	<ul style="list-style-type: none"> ・指導を改善し児童生徒を伸ばすための評価 ・一定の学習過程の途中で学習状況について評価し、改善すべき点を発見して指導や学習の向上に用いる評価
総評括評価的	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の判定（評定）のための評価 ・一定の学習が終了した時点で、その間の学習成果や学習状況を要約して示すもの

主体的に学習に取り組む態度の評定の求め方

知恵	小学校				中学校			
	主の基本	評定の基本	明白な根拠がある		主の基本	評定の基本	明白な根拠がある	
			主の変更	評定の変更			主の変更	評定の変更
AA	A	3	B		A	5	B	4
AB/BA	B	2	A	3	A	4	B	3
BB	B	2	A		B	3	A	
BC/CB	B	2	C	1	B	2	C	1
CC	C	1	B		C	1	B	
AC	B	2			B	3		

1段上げるケースは、メタ認知能力の発揮に関わるものや、A基準（A判定の根拠）に用いられるキーワードに該当する場合等があります。
 評価の信頼性を高めるためにも、学年や教科で評価の基準を統一させることが大切になります。

主体的に学習に取り組む態度は、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点と基本的に連動するという考え方で評定を行います。しかし、評価材料を蓄積し「明白な根拠のある場合」は評定を1段上げ（下げ）ます。明白な根拠を見付けるために、下記のルーブリックを用いることが有効です。
 ※この考え方はあくまで一例です。評定については、各学校の判断で行います。

一人で抱え込まないことが重要です。



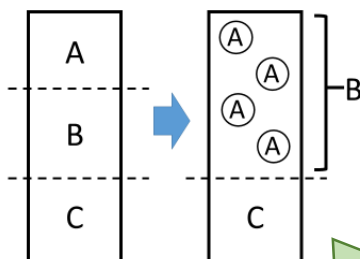
ルーブリックの考え方

道研連共同研究推進委員会で話し合った

ルーブリックの考え方

【ルーブリックとは】

成功の度合いを示す数値的な尺度あるいは評語と、それぞれの数値や評語にみられる認識や行為の質的特徴を示した記述語からなる評価基準表のこと



3層に分けて捉えるのではなく、Bの中にさまざまなAがあると捉える。

Aと判断するポイントの例

- ・速やかさ
- ・丁寧さ
- ・集団への寄与
- ・興味の広がり
- ・応用・活用の意識など

【共同研究推進委員から】

明確な基準があり、学校全体での取組となれば負担軽減になるが、児童生徒や保護者に納得の得られる基準にする必要がある。

本研究では、AとBを明確に分けず、Bの中に様々なAがあると捉えます。

ルーブリックの例

※小学校第3学年「表と棒グラフ」（国研資料・事例4）の事例をもとに事務局が作成

評価規準 判断基準	記述語（主体的に学習に取り組む態度）
A 「十分満足できる」状況	【加点するポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で問題を見出して、アンケートを作るなど学習の計画を立てている。 ・1回の比較・調査で終わらず、さらに調査や追究を進めている。 ・友達の考えを取り入れて、修正している。 ・友達により影響を与える取組をしている。等
B 「おおむね満足できる」状況	【評価規準】 <p>問題解決に必要なデータを集め、観点を定めて分類整理し、それをグラフに表して見いだしたことを表現しようとしている。</p>
C 「努力を要する」状況	【手立て】 ※B基準に到達していない子（表現しようとしていない子） <ul style="list-style-type: none"> ・幾つかの問題から選択できるように選択肢を用意しておく。 ・過去の作品や見本を示し、完成（ゴール）をイメージさせる。 ・児童同士の交流を設けて見通しをもたせる。等

加点するポイントを複数設定し単元を通して見取る。

B基準に到達していない児童生徒に対する手立てを明示する。

※作成・収集した事例の詳細については、指導案バンクに掲載していますので、御確認ください。

A 学びに向かう力の育成に向けた学習指導

- ア 学習の見通しがもてる学び方の工夫
 - ・単元を通した課題等の設定
 - ・児童生徒と学習評価の方針を事前に共有する場面の設定
- イ 単元内容のまとまりの中で、自らの考えを記述したり話し合ったりする活動の工夫
- ウ 自らの理解の状況を振り返る活動の工夫

B 主体的に学習に取り組む態度を見取る学習評価

- ア 「粘り強さ」と「学習の調整」を意識した評価規準の設定
- イ 「指導に生かす評価」と「記録に残す評価」を意識した評価場面の精選
- ウ 「十分満足できる」学習状況の検討
- エ 「努力を要する」状況の児童生徒への手立て
- オ 記述ではない形で表出する児童生徒の姿に着目した評価方法の工夫
- カ 「指導に生かす評価」の結果を用いた授業改善
- キ 単元を通した「主体的に学習に取り組む態度」の総括的評価

A 学びに向かう力の育成に向けた授業実践例

ア 学習の見通しがもてる学び方の工夫

R 3 網走地方教育研修センター（小4・国語）

〔事例〕
登場人物の変化を中心に読み、物語を紹介しよう
「プラタナスの木」
(C読むこと)



単元のねらいを基に、必要な言語活動を設定

単元を通して身に付ける言葉の力を明確化

R 3 留萌管内教育研究所（小1・国語）

〔事例〕
「たのしかったことをかこう」
(B書くこと)

表2 児童用ルーブリック

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎	「は」「へ」「を」「ら」「。」やかぎかっこ、ひらがなやかたかなをただしくつかってつかいかたをおしえられる。	かきたいことをみつけて「。」が五こいじょうのぶんしょうをじゅんじょよくじぶんのきもちがつたわるようにかくことができる。	たのしかったことやがんばったことなかから、かきたいことを五ついじょうみつけることができる。
○	「は」「へ」「を」「ら」「。」やかぎかっこ、ひらがなやかたかなをただしくつかうことができる。	かきたいことをみつけて「。」が四こいじょうのぶんしょうをじゅんじょよくじぶんのきもちがつたわるようにかくことができる。	たのしかったことやがんばったことなかから、かきたいことを四ついじょうみつけることができる。

教師用ルーブリックだけでなく、児童用ルーブリックを学習の「めあて」と一緒に提示

児童が自己評価しやすいように数値を用いた評価を導入

イ 考えを記述したり話し合ったりする活動の工夫

R 2 留萌管内教育研究所 (小2・生活)

〔事例〕
まちが大きい
たんけんたい

「思考ツール」を活用し、思考を可視化させる

- 個人思考をする
 - ・あれ? 「人」や「自然」がほとんどないぞ。
- グループ交流
 - ・この付箋、どこに貼ったらいいか迷っているんだけど、どう思う?
 - ・お気に入りの場所、どこにした?

◇紹介したいことを書いた付箋をXチャートで分類する。

思考を表現に置き換える

協働して課題解決する

「思考ツール」に書き込み、変容や気づき、深まりを可視化する

- 全体交流
 - ・私のお気に入りには・・・なぜかという・・・

友達との交流を通して、まちのすてきな人や自然、場所などについて積極的に考え、思考ツールに追記しているかを見取る。

思考ツール「Xチャート」に考えを記述させ、効果的に話し合う場面を設定

ウ 自らの理解の状況を振り返る活動の工夫

R 3 岩見沢市立教育研究所 (小4・国語)

〔事例〕
結果と結論のつながりを捉えよう
「ぞうの重さを量る」「花を見つける手がかり」
(C読むこと)

振り返りの視点の設定

- ・ その時間に分かったこと (成長)
- ・ よく分からなかったこと (疑問)
- ・ 考えを深める参考となった友達の意見 (仲間)
- ・ これからどんなことに取り組みたいか (繋ぐ)

ICTの活用

- ・ ロイロノートの機能を生かして、記述を全員で読み合ったり児童同士が互いの記述に対するよさを送り合ったりする。

振り返りの行い方についての指導

ICTの共有性・保存性を生かした活用

- 振り返りの質が向上
- 児童の伝え合おうとする意識の高まり

R 3 上川教育研修センター (中1・外国語)

〔事例〕
日常的な話題について、お互いの情報や考えなどを伝え合う

学習途中の記入例

1枚ポートフォリオに毎時間記入

上側に「成果・理由・工夫」を記入させる。

下側に「課題・原因・次回」を記入させる。

【学習開始】学習の価値付け、見通しをもつ姿

【学習途中】自らの学習状況を把握し、修正する姿

【学習終了】何ができるようになったのかを実感し、学習意欲を高める姿